



# バンコク便り



## 1. はじめに

タイ観光・スポーツ省の発表によれば、4月1日～21日にかけて開催されたソンクラーン祭り期間中に約192万人の外国人旅行者がタイを訪れ、その消費額は約902億バーツ（約3,788億円）に上るなど、タイ経済に大きな恩恵をもたらしたそうです。また、2024年1月1日から4月9日までにタイに入国した外国人は、中国人観光客の約192万人を筆頭に、約1,000万人となり、タイの観光は今後さらに活気づくことが期待されます。

## 2. 現地ビジネス情報（タイのアルコール市場について）

2024年2月、「政府はアルコール飲料販売時間規制を緩和して、原則的に禁止している午後2～5時の販売を容認する見通しである」というニュースが発表されました。タイでのアルコール飲料の販売時間は、「平日午前11時～午後2時と午後5時～0時」、さらに「仏教由来の祝日は終日販売禁止」といったルールが50年以上にわたり続いており、今般の規制緩和は大きな変化と言えます。

2018年の1人当たり年間アルコール消費量は6.57リットルと世界64位ですが（日本は63位/6.82リットル）、ビールの年間消費量（2021年）では同24位となっており、タイはビール好きの国民であることがうかがえ、その消費量は安定して増加しています。

最近の特徴としては、品質と洗練度の高いビールを好む層が増えており、国内ビール事業者は体験型イベントを通じて、プレミアム価格帯の製品を積極的にプロモーションしています。アルコール飲料の輸入量もビールが最も多く、最大の相手国となるベトナムからの輸入は、2018年以降急増しています。タイの主要なアルコール飲料メーカーがベトナムに醸造所を有していることや、クラフトビールの人気が高まっていることなどが背景にあります。

また、アルコール飲料の中で2番目に消費量が多い蒸留酒市場も年率1%前後で緩やかに成長しています。現状、大手メーカーの寡占状態にありますが、一方で市場競争は厳しくなく、中間所得層向けの高価格帯スピリッツやブランデーであれば、新規参入余地があるのではないかとされています。

さらに近年、梅酒が新たなトレンドとなっており、特に女性から支持されています。地場流通大手のセントラル・グループやドン・キホーテで人気商品として取り扱われているほか、タイ人経営の梅酒バーも現れ、バンコク市内だけでも5軒が開店しています。日本からの梅酒輸出も急拡大しており、2018年に1億円だった輸出額は2022年に6億円を超えるなど、過去5年間で6倍以上に増加しました。今後、梅酒人気はどこまで拡大するか注目されます。



バンコク中心地の梅酒バー

## 3. 現地トピックス（ジャパンエキスポタイランド 2024 の開催！）

2月2日（金）～4日（日）までの3日間、アジア最大級のオールジャパンイベント「ジャパンエキスポタイランド 2024」が大型ショッピングモールのセントラルワールドにて開催されました。

日本のアイドルやアーティストによるライブも行われ、最終的には延べ70万人が参加したそうです。また同期間中にバンコク最大級の劇場であるサイアムパラゴンでは、日本アニメの祭典として「JAMNIME FESTIVAL 2024」が実施されました。作品によってはチケットが売り切れるなど、日本のエンターテインメントコンテンツの根強い人気を証明しました。



会場内の様子